

先月26日、東京・武蔵野市の動物園で飼育されていた象の「はな子」が死んだというニュースがありました。国内最高齢の69歳だったそうです。象といえば、わが園の園庭の足洗い場に象の絵があることから、開園当時より「ぞうさんの保育園」と親しまれ、園の看板のマークなどにも使っていますので、なんとなく、象には特別な思い入れがあり、この象の「はな子」の死を悲しく思いました。そこで、今回は「象」にまつわるお話を・・・。

みなさん、童謡の「ぞうさん」はご存知ですよね？

♪ ぞうさん ぞうさん おはなが ながいのね そうよ かあさんも ながいのよ
ぞうさん ぞうさん だあれが すきなの あのね かあさんが すきなよ ♪

この『ぞうさん』の歌詞は、詩人のまど みちおさんによって書かれました。『まど・みちお一詩と童謡』という本の中に、まどさん自身の『ぞうさん』についての自作解説が載っていたので紹介します。

この世の中で一ばん鼻の長いのが象で、象のように鼻の長い動物は他にいません。バクが幾らか長いといってもぞうの比ではありません。この地球上の動物は、みんな鼻は長くないのです。そういう状況の中で「おまえは鼻が長いね」と言われたとしたら、それは「お前は不具だね」と言われたように受け取るのが普通だと思います。しかるにこのゾウは、いかにも嬉しそうに「そうよ、母さんも長いのよ」と答えます。長いねと言ってくれたのが嬉しくてたまらないかのように、褒められたかのように。自分も長いだけでなく自分の一番大好きなこの世で一番尊敬しているお母さんも長いのよと、誇らしげに答えます。このゾウがこのように答えることができたのはなぜかといえば、それはこの象が、かねがねゾウとして生かされていることを素晴らしいことだと思いい幸せに思い有難がっているからです。誇りに思っているからです。(中略)ゾウに限りません。けものでも虫でも魚でも鳥でも、いいえ草でも木でも数かぎりない生き物がみんな夫々の個性を持たされて生かされていることは、何物にもかえられない素晴らしいことです。もちろんその中の一員として、人間が人間として生かされているのは本当に素晴らしいことです。」

(谷悦子『まど・みちお一詩と童謡』創元社より)

『ぞうさん』の歌詞には、こんなに深い意味があったんですね。

この歌詞に出てくる象の子どもは、きっと産まれた時から、親からたっぷりの愛情を受けて、「おまえはおまえのまま素敵なんだよ」と言われて育ったのでしょう。お母さんのことが大好きで、自分の容姿のことを他人にからかわれても、それを「だいすきなお母さんと同じなんだよ」と誇らしげに答えているのです。

大事なのは「周りからどう思われているか」ではなく、「自分がどう思っているか」なんだということはこの『ぞうさん』から気付かされます。

日本の子どもたちは、世界で、ずば抜けて自己肯定感が低いそうです。「自分のことを好きになれない」、「自分に自信が持てない」という子どもが非常に多いのです。それは、子どもたちが悪いのではなく、そう育ててしまっている私たち大人のせいなのです。

つい先日も、「しつけのため」と小学2年生の子を山林に置き去りにしてきた親がいたというニュースがありました。このところ「しつけ」と称した「虐待」が後を絶ちません。そもそも、あんなのは「しつけ」だとは思いますが、「厳しく接してしっかり育てよう」などと思わずに、たっぷりの愛情を注いであげて欲しいと思います。間違っただけをした時には、それが間違っただけだと教えなくてはいけませんが、子どもの存在そのものを否定するようなことは、決して、してはいけないと思うのです。子どもは親から愛されていると感じることが出来れば、必ず、思いやりのある優しい子に育ちます。

人間として生まれ、親や周りの人からの愛情をたっぷり受け、人として生きていることを心から喜ぶことのできる子に育てていきたいものです。